

## 第2学年 新学習指導要領解説 算数編を読む

### 1 主な改善点

目 標	B 量と測定	「体積など」の単位が入った。
	C 図形	「三角形や四角形など」の図形についての理解が入った。
	D 数量関係	具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。
内 容	A 数と計算	4位数までの数の意味や表し方について指導し、1万についても取り扱う 1/2, 1/4などの簡単な分数について指導する。 簡単な場合についての3位数の加法及び減法について取り扱う 2位数と1位数との乗法について取り扱う
	B 量と測定	体積の単位(ℓなど)と測定について指導する 時刻の読み方について指導する
	C 図形	正方形, 長方形, 直角三角形について指導する 箱の形をしたものについて指導する
	D 数量関係	加法と減法の相互関係について理解し, 式を用いて説明できるようにする。 乗法が用いられる場面を式に表したり, 式を読み取ったりすることができる。 身の回りにある数量を分類整理し, 簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

#### <一言解説>

- ・ 数量関係の領域が新設された。特に、場面を式に表したり、式を読み取ったりすることは、香川県学習状況調査の考察でもその必要性が述べられている。
- ・ 簡単な場合についての3位数とは、百を単位としてみられる数の加法減法と、3位数と2位数などの加法及び減法である。(解説p )

### 2 算数的活動について

ア	身の回りから、整数が使われている場面を見付ける活動
イ	乗法九九の表を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見付ける活動
ウ	身の回りにあるものの長さや体積について、およその見当を付けたり、単位を用いて測定したりする活動
エ	正方形, 長方形, 直角三角形をかいたり, 作ったり, それらで平面を敷き詰めたりする活動
オ	加法と減法の相互関係を図や式に表し, 説明する活動

#### <算数的活動の例>

- ・ 1/2を指導する際、プリントを半分に折るという具体的、作業的な算数的活動を通して、半分になったときの大きさの、表現の仕方を考える。
- ・ 算数的活動イ 既習のかけ算の積を表にまとめる。その際、途中から計算しなくても積を答えることが出来ている子ども自身の姿に気付かせ、その理由を説明させる。このような調査的、探究的側面をもった算数的活動を通して、計算の性質やきまりを見出させる。

### 3 移行期（21年度）の具体的授業像

#### （1）新しい指導内容（領域は、新しい学習指導要領第2学年のもの）

領域	内容	現行指導学年
A	(1) 1万についても取り扱う	3学年から
A	(2) イ 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。	3学年から
B	(3) 時間について理解し、それをを用いることができるようにすること。 ア 日、時、分について知り、それらの関係を理解すること。	3学年から
C	(1) イ 正方形、長方形、直角三角形について知ること。	3学年から
C	(1) ウ 箱の形をしたものについて知ること。	3学年から

#### （2）授業例（啓林館 わくわく算数 2年上）

単元名 「もっと ひっ算の しかたを 考えよう [たし算と ひき算の ひっ算(2)]」

単元の概略（現行：全10時間 新：全12時間）

時数	指導内容
4	1 たし算 ・ (2桁) + (2桁) $\geq 100$ の筆算の仕方とその計算 ・ 3口のたし算
4	2 ひき算 ・ (2桁) + (2桁) $\geq 100$ の逆の減法の筆算の仕方とその計算
1	3 どんな計算になるのかな ・ 加減の演算決定問題
2	・ (3位数) $\pm$ (2位数)の簡単な筆算
1	評価と振り返り

#### 本時の算数的活動

既習の筆算を用いて行った3位数同士の計算について説明させる場を設定し、数え棒などを操作させてまとめる経験を基に、100のまとまりにする具体的、体験的な側面をもった算数的活動を通して、100を単位としてみられる数の加法・減法の計算の仕方を理解する。

#### 本時の展開のポイント

前時同様「どんな計算になるのかな」の買い物場面において、用いる数を拡張した場合の計算の仕方について考える。

「お小遣いの300円と、おばあちゃんからもらった200円をもっているよ。」という子どものセリフを見て、これまでの勉強と、同じこと違うことについて話し合わせる。同じこと お財布の中で合わせるお話、から、演算を判断し $300 + 200$ と立式させることができる。違うこと何百円、から、本時の課題「何百円の計算の仕方を考えよう」を設定できる。いったん計算させ、その仕方を説明する際には、「束をつくって考える」という手続的知識を意識させ、筆算の数と数え棒を黒板上でつないで説明させることで、同じ位同士を計算するという筆算形式の理解をより深めることができる。